



放送での「音楽集会」～学校坂道～

今日は夏至。1年で一番昼の長い日です。先日植えた稲も順調に生育していて何よりです。

さて、先週から教育実習が始まりました。先週の後半から授業も始まり、子供たちと一緒にしっかり教材と向き合っている姿勢が印象的でした。教育実習は教えているようで実は学生さんと一緒に教材研究をすることで教えられることもたくさんあります。また、実習生の先生の授業を参観することで、客観的に自分の学級を見つめ直すよい機会にもなります。担当の西條先生には忙しい思いをさせますが、子供たちにとって得るものも多い教育実習の期間です。実習生の先生と一緒に学ぶつもりで取り組んでもらえれば、と思います。



週明けの21日(月)は放送で音楽集会が行われました。やっぱり歌声のある学校はいいですね。教室を回ってみると、どの学級からもきれいな歌声が響いていて感心させられました。靖子先生の今日の指導は①メロディライン②伸ばす音をしっかり③話し声と歌声の違い、をポイントに、靖子先生ご自身が歌っていただくことで、子供たちに指導のポイントが明確に伝わっていました。

どの学級の歌声もきれいでしたが、3年2組では阿部桃子先生が指揮をして指導しながら歌わせていたので、とりわけきれいな歌声が響いていました。



実は前任校(宮城教育大学附属小)では、毎年12月に「合唱の会」があって、24学級の学級合唱と1年生から6年生までの学年合唱を披露する会があります。私のような音楽が苦手な教員にとっては、本当に苦痛な行事で、それは担任は学級合唱の指揮をすることを義務づけられていたからです。ところが逃げ出したいくらい嫌だった指揮ですが、3年も経験すると、これが「快感」に変わってくるので不思議です。1つの合唱曲を創り上げることを通して、子供たちと心を通わせ、時にぶつかり合いながら、何度も試行錯誤を重ねて当日を迎えます。合唱の指導、というよりもそれは「学級づくり」に直結しています。学校全体に合唱を大事にする文化が根付いていたことも、この会が長く愛されている要因でした。

今月号の教職研修で養老孟司さんの『AIの壁 人間の知性を問いなおす』が取り上げられていました(静岡大学教職大学院教授 武井敦史教授)。興味深いのは「今の子どもに準備しなければならないのは、答えとしての出力ではなく、いかにいろんなプロセスを経験させるかという入力、つまり、五感を鍛えるということ・・・」の指摘でした。今日の「学校坂道」はまさに五感を育てるにはぴったりの教材で、改めての歌の持つ力を感じた1日でした。(文責:手代木)